

# おじいちゃん

太原正裕

おじいちゃんは、いつものように、黒い大きな鉄の自転車を押してある  
いています

私は、さっきまで荷台に座って二人乗りをしていました  
人が増えて来たから、とおじいちゃんが下してくれて、  
荷台に捕まりながら、歩いています

道の両側には、いろいろな屋台が出ています

とても良い天気で、にぎやかです

まわりには大勢人が歩いています。みんな楽しそうです

歩いて行くと、屋台はもつとふえ、ヨーヨー釣り、射的もありました

おじいちゃんは、歩きながらあちこちの屋台で売っている人に  
挨拶をしたり、楽しそうに短い話をしたりしています

たくさんの野菜を背負ったおばさんに会いました

おじいちゃんのお友達みたいで、その荷物を自転車の荷台に乗せてあげて、  
並んで話しながら歩き出しました

僕は横のお面屋さんのウルトラマンの顔に見とれていました  
気がついたら、おじいちゃんとおばさんはずっと先にいます

僕はあわてて追いかけてきましたが、人が多くて進めません

少し遠くで二人がお寺の中に入って行くのが見えました

僕は安心して、走ってお寺の境内に駆け込みました

お寺の中は、とても静かです

人がほとんどいません

横を見たらおじいちゃんの黒い大きな自転車が止まっています  
掃除をしている小僧さんに、

「この自転車を押していたおじいちゃん知らない」

と聞きました

小僧さんは、誰も見ていないよ、と言い掃除を続けています  
ぼくはびっくりして、境内の中を駆け回り、

靴を脱いで本堂にも上がって、おじいちゃんを探しました  
廊下を走って行ったら、年を取ったお坊さんが、優しい笑顔で僕を見て  
います

「おじいちゃんがないの」と言ったら、そのお坊さんは

「首から下げているのは携帯電話かな。おじいちゃんに電話してみれば」と静かに言いました

そうです、家を出る時にお母さんが

何かあったら、これ使うのよ、家の番号とおじいちゃんの番号しか入って  
ないからね、

と首からかけてくれた携帯電話でした

いくらさがしても「おじいちゃん」の番号が出てきません

「坊や、おじいちゃんの名前は」とお坊さんが聞くので、

「キミヘイ！」と僕は叫びました

「なら、君平で探さないと、だめだよ」と言いました

僕はあわてて君平を探しました

お庭を掃除しているさっきの小僧さんが、それを見上げながら、

「坊や、おじいちゃんの時代には携帯電話なんか無いよ」

と言いました

携帯のアラームが鳴った。目が覚めた。泣いた。

太原正裕

たはら まさひろ

1983年早稲田大学商学部卒業、東京都民銀行入行

1997年東京都民銀行退職、ベンチャーキャピタリストとして独立

途中、1999年法政大学の夜間大学院修了、  
2000年9月より城西大学経済学部経営学科  
で非常勤講師

(専攻：ベンチャー企業論など)

2004年より城西大学経営学部客員教授

2007年より同准教授、2012年より同教授。

同年8月末で5年の任期満了、退職。

現在、有限会社サンズ代表（コンサルティング業）と塾講師を兼業